

20th Asian Games AICHI-NAGOYA

2026年アジア競技大会が愛知・名古屋へ



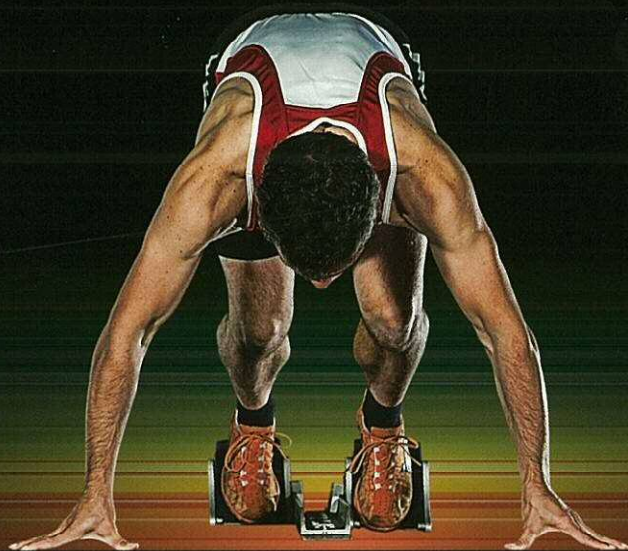
AICHI-NAGOYA

この街が、夢の舞台に。

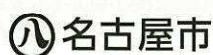
2026年 9月19日[土]
—10月4日[日]
(開催予定)

第20回アジア競技大会開催概要

実施競技	36競技を想定
参加者数	選手、大会関係者約1万5千人を想定
参加国・地域	45の国と地域



OLYMPIC COUNCIL OF ASIA



アジア最大のスポーツの祭典が 2026年、愛知・名古屋で開催！

アジア・オリンピック評議会（OCA）が主催し、4年に1度開催されるアジア最大のスポーツの祭典「アジア競技大会」。第二次世界大戦後まだ間もない1951年、戦禍によって引き裂かれたアジアの諸国の絆を、スポーツを通じて取り戻し、アジアの恒久平和に寄与したいとの願いを込めて始められました。2026年、愛知・名古屋で開催される「第20回アジア競技大会」は、日本では32年ぶり3回目の開催となります。



過去大会と開催予定

※OCAウェブサイトをもとに作成

回	開催年	開催都市	開催国	参加国及び地域	参加選手数
1	1951年	ニューデリー	インド	11	489人
2	1954年	マニラ	フィリピン	19	970人
3	1958年	東京	日本	16	1,820人
4	1962年	ジャカルタ	インドネシア	12	1,460人
5	1966年	バンコク	タイ	16	1,945人
6	1970年	バンコク	タイ	16	2,400人
7	1974年	テヘラン	イラン	19	3,010人
8	1978年	バンコク	タイ	19	3,842人
9	1982年	ニューデリー	インド	23	3,411人
10	1986年	ソウル	韓国	22	4,839人
11	1990年	北京	中国	36	6,122人
12	1994年	広島	日本	42	6,828人
13	1998年	バンコク	タイ	41	6,554人
14	2002年	釜山	韓国	44	6,572人
15	2006年	ドーハ	カタール	45	9,520人
16	2010年	クワンチウ（中国）	中国	45	9,704人
17	2014年	仁川	韓国	45	9,501人
18	2018年	ジャカルタ・パレンパン	インドネシア	45	11,300人
19	2022年	ハンコウ（中国）	中国	—	—
20	2026年	愛知・名古屋	日本	—	—

アジア競技大会特有の競技

オリンピックで行う競技に加え、アジア特有の競技も行われることが、アジア競技大会ならではの魅力となっています。

セパタクロ

9世紀から東南アジアの各国各地で伝えられてきた伝統スポーツ。「セパ」はマレー語で「蹴る」、「タクロ」はタイ語で「（藤で編んだ）ボール」という意味。ネットをはさんでつま先やひざ、頭を使って、ボールを3回以内で相手のコートに返し合います。



カバディ

各7名の2チームで二分したコートにチームごと分かれて入り、攻撃者1名が相手側のコートに入り「カバディ、カバディ」と声を出し続け、守備側の選手にタッチして素早く自分のコートに戻ればタッチした人数分の点数をゲット。守備側は攻撃者の手足・胴体をタックルのようにつかまえて、攻撃側に戻るのを防げれば1点をゲットします。



※写真はすべて第18回アジア競技大会（2018/ジャカルタ・パレンパン） ©フォート・キシモト

愛知・名古屋大会で予定されている競技※

水泳（競泳/飛び込み/アーティスティックスイミング/水球）、アーチェリー、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボクシング、カヌー・カヤック（スプリント/スラローム/ポロ）、自転車競技（トラックレース/ロードレース/マウンテンバイク/BMXレース）、馬術、フェンシング、サッカー、ゴルフ、体操（体操/新体操/トランポリン）、ハンドボール、ホッケー、柔道、近代五種、ボート、ラグビー、セーリング、射撃（ピストル/ライフル/クレ）、卓球、テコンドー、テニス・ソフトテニス、トライアスロン、バレーボール・ビーチバレーボール、ウエイトリフティング、レスリング、野球・ソフトボール、ボウリング、クリケット、カバディ、マーシャルアーツ（空手・武術太極拳など）、セパタクロ、スポーツクライミング、スカッシュ

※2018年9月現在。実施競技は変更となる場合があります。